

特定非営利活動法人  
日本リザルツ

# 平成29年度 事業報告書

日本リザルツ  
平成30年3月5日作成

06

J U N E



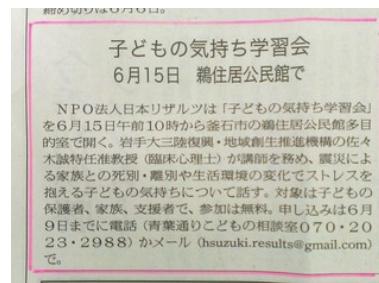
2017年06月01日

## 新スタッフを迎えて

今日から6月に入り、一般家庭にとって影響が大きい食品などが値上げされる中、当団体に新たなスタッフが入ってきた。いずれ、現在リザルツが結核予防などの事業を行っているケニアで活躍してもらうことになる。自身が学んできたことを活かし、海外でのキャリアアップを図る、頼もしく且つ羨ましく思いつつ、暫くは当団体の活動内容やケニア・ナイロビでの事業を、少しでも理解・修得してもらうよう、全力でサポートしたい。他国に比し日本からの海外留学生数は少ないと言われているが、将来海外で働きたいと意欲を持っている人は、まだ多くいる。特に海外での協力・支援活動に興味を抱いている方たちにとっては、現地に滞在する中で合理／非合理を知り、悩みながらその対処法を考える良い機会にならかせない。ケニアの場合隣国ソマリアからのイスラム武装勢力が、数年前から事件を起こしているが、現在は8月の大統領選挙を含む総選挙に向けた熱気の方が、一般民衆にとって心配の種かも知れない。先進国だから治安は良いだろう、などと思っている人は殆どいない。世界で安心してどんな場所でも歩ける都市や地域は年々限られてきたように思う。“貧困と飢餓をなくす”気持ちを抱く人たちの邪魔をしてほしくはない。

## 釜石生活66～釜石市教育委員会後援～

6月15日（木）10～12時、鵜住居公民館にて「子どもの気持ち学習会」を開催する。平日に、街の中心部からは少し離れたエリアでの開催となるため、今回もたくさんの人に来ていただくのが難しい状況ではある。なぜそのような困難に挑むかと言うと、二つ理由がある。一つは、以前、鵜住居エリアの民生委員協議会に参加させていただいた時に「いろんな講演会があるけど、こっちの方ではなかなかやってくれない…」という意見が出ていたので、それに応えたいという気付しがあった。もう一つは、復興工事が続く鵜住居地区は震災の被害がもっとも大きかった地区だ。まだ地図にも載っていない建ったばかりの公民館で、「家族との死別・離別や、生活環境の変化でストレスを抱えた子どもの気持ちの勉強会」をする意義は大きいと考えるからだ。大切な人との死別・離別を思い出すのは大人にとっても辛いことではあるが、子どもは自分の辛さを心のコップにためてしまう傾向があり、コップがいっぱいになると怒りとして表する。乱暴な子どもも、怒っている子どもの本当の気持ちを考えてあげられるのは、周りにいる大人だ。この学習会を、釜石市教育委員会が後援し



てくださることになった。養護教諭の先生や、授業に差し障りのない先生は、校長先生の許可があれば、勤務時間内に参加することができる。早速チラシに「後援：釜石市教育委員会」の文言を入れた。

「釜石新聞」にも載った。

## 美しい花束

本日は目の保養に美しい花束の写真をお届け。



2017年06月05日

## 釜石生活 67 ~子どもの心の相談会~

6月3日（土）10～12時、子どもの心の相談会を開催した。

青葉ビルの活動室は広々として明るい部屋。

入口も入りやすく可愛らしい感じに

臨床心理士の佐々木誠先生は、震災の翌年、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の特任准教授として着任され、とても気さくで話しやすい雰囲気の先生だ。相談者の方々の心が軽くなって帰りになれたのではないかと思う。

**子どもの心の相談会**

子育てしていく、気になること、心配なことなど、臨床心理士に相談してみませんか？  
※臨床心理士、臨床心理学に基づき知識や技術による精神的問題を抱える、心の問題について相談する

**日 時：**6月3日(土)  
10:00～12:00

**会 場：**釜石市青葉ビル 活動室2

**対 象：**子どもの保護者、家族、支援者

**内 容：**いじめの不安感、児童虐待、亲子関係のこと、  
離婚・再婚の影響等、子どもの心に関する相談会。

**申込み：**電話 またはメール(5/29まで)  
📞 070-2023-2988  
✉️ houzukiresult@gmail.com

※予約制、混雑時は相談  
※青葉ビルの営業時間がございません。  
ご来場の際は各自お手洗いご利用ください。

**佐々木 誠 臨床心理士**

卒業料修了11月現在、医療、2013年に釜石市臨  
床心理士資格、スクーラルソーシャルワーカー認定  
取得。経験でのり、経営講師経験にて、2012年より  
岩手大学三陸復興・地域創生推進機構にて、  
連携型こども相談室、被災者支援のための連携モデルの  
インセンティブ、被災活動を中心に、大学にて後輩の  
指導の専門性を重視しています。

**青葉通りこどもの相談室** TEL:070-2023-2988  
✉️ 5/29までメール・電話にて予約ください。  
✉️ houzuki.result@gmail.com



## ナイロビ生活 vol.19 “カルヴィンの活動編”

彼は毎日、結核患者宅を訪問しインタビューしてくれている。日本リザルツとして作成している最終報告書で1番重要な結核患者の声を拾ってくれている。本日(6/5)、カンゲミを訪れ、少しだけですが彼の活動に同行させていただいた。結核患者、CHVに親身になって寄り添い、常に患者・CHV 目線で報告



してくれています。彼には感謝してもしきれない。(右がカルヴィン。)

## 栄養バランスの不良と肥満：非感染性疾患

去る5月11日は、「世界肥満症治療デー」。食料不足で悩む人々が多い反面、栄養バランスが悪く、肥満に悩む人々も急増している。肥満の及ぼす健康問題だけではない。米国の医療費はGDPの15%を占め、その半分は、直接・間接に肥満に関連する症状の治療に費やされているという。医療費の削減にも、肥満対策は必須だ。米国は、肥満者の数で世界一と言われていたが、中国が今年、米国を抜いたという研究者もいる。世界一の争いに日本が加わっていないのはありがたいが、油断はできない。問題は、直近のファイナンシャルタイムズの記事が指摘しているが、中国でも肥満の主体が「都会の低所得者層」になっていること。高カロリーの食品の方が、栄養バランスの取れた食品よりずっと安価に手に入る。4月に日本リザルツも共催させて戴いた「2016世界栄養報告」セミナーでも指摘されているように、適切な栄養の不足とカロリー過剰は開発途上国における深刻な課題になっている。非感染性疾患(NCD)として、肥満・糖尿病の低減と食塩の過剰摂取防止を主とする栄養改善の取り組みは、2020年にかけて日本が世界に貢献できる重要なテーマだ。ところで、食欲の抑制は難しい。1995年に発見された脂肪細胞から放出されるレプチンは、食欲抑制ホルモンとして話題を集め、「究極の痩身剤」として特許獲得競争を産んだ。が、レプチンが影響を与えるのは、体内的血糖値が異常に減った時に、レプチンの食欲抑制効果が減って食欲が増進する時。逆に言えば、レプチンは常に働いていて、人間の身体は食欲抑制のブレーキが常にかかった状態になっている。これでは、体重計に乗るのが恐くなるのも当然ではないか。レプチンの発見後も、食欲抑制遺伝子や食欲コントロール・ホルモンの発表は相次ぐが、効果的な「痩せ薬」にはつながりそうにない。人類は歴史的に常にカロリー不足で悩んでいたので、カロリー過剰に苦しむのは想定外の事態であり、「痩せ薬」や「痩せる為の遺伝子治療」が実現困難であるのも当然のことだろう。世界の栄養改善は大問題だが、身近な肥満防止には、痩せ薬に期待せず、運動と腹八分目という昔ながらの方法に従うしかなさそうだ。

## **数理倫理学の薦め**

---

もう四十年以上前だろうか。ロゲルギストの一人が、「数理論理学」ならぬ「数理倫理学」を提唱したことがある。文明の利器の導入に伴う社会的リスクを無自覚に受け入れる風潮に警鐘を唱えたのだと記憶している。例えば、自動車の利便性には、自動車による交通事故の死傷者という負の面を考える必要がある。自動車が広く普及している現実を考えれば、大多数の人は、交通事故死傷者の比率が低ければ社会への利便性の方が上回っていると判断していると推察できるだろう。つまり、利便性を数値化できれば、それに対する社会常識的に許容される死傷者率が数値化される。（人口 1 億人で交通事故の死者数を年間 4000 人とすれば、0.004%である。）こうした手法は、例えば医薬品の副作用のリスク評価にも適用できるのではないか。副作用の全くない医薬品は考えられない。どこまでリスクを許容するかを、感情論に陥らずに数値で冷静に判断する一つの指標になるのではないか。更に言えば、ワクチンの開発と適用には、こうしたリスク数値も考慮してみたらどうだろうか。ワクチンの性質上、副作用ゼロは難しい。が、ワクチンの広範で有効な予防効果は、それが救える命と医療費の総額を考慮すれば、自動車の利便効果に匹敵するものが少なくないのではないか。そう考えると、副作用のリスクの上限を、交通事故のリスクと比較することも可能になる。もちろん、話はそう単純ではないが、安全率をかけて十分に低い数値を設定し、かつ副作用に対する万全の備えをした上で、副作用のリスクの数値的指標が得られて、ワクチンの効果と副作用のバランスに対する客観的な議論を行うベースにはなるだろう。さもないと、数例の確証の取れない症例を元に、オール・オア・ナッシングの議論で白黒を決めることになりがちだ。全てを数値に置き換えて議論をすることに批判はあるだろう。ただ、時にこうした「冷たい方程式」を採用しないといけない議論があると言う事は、冷静に受け止めるべきであろう。日本のワクチン開発と適用は、世界の趨勢からどんどん取り残されている。こうした実情を見据える上で、リスクの評価が感情論に流れている現実から、目をそらすわけにはいかなくなっている。「数理倫理学」の議論の再考を勧める所以である。

2017 年 06 月 06 日

## **NGO・外務省定期協議会「全体会議」**

---

本日の午後、外務省で実施された NGO・外務省定期協議会「全体会議」に参加した。小田原潔外務大臣政務官を始め、国際協力局の皆様、全国の NGO 団体から 70 名ほどが参加した。全体会議では、SDGs に基づいた今後のプロジェクトの方向性、平成 29 年度の予算編成などをテーマに報告、ディスカッションが行われた。国際保健、栄養改善、人権、教育などを専門とする各 NGO 団体が参加したため、多岐に渡る観点で話し合いが持たれた。日本の顔の見える国際協力を進めるためにも、各 NGO、JICA、外務省が、互いの専門性を補完し合いながら連携していくことの重要性を再度確認した。近年、グローバルヘルス領域でも、各専門職の連携に加え、企業、各 NGO 団体との連携の重要性が強調されている。効果的、効率的な連携には、コーディネータ

一の役割が重要だ。8月から行われる日本リザルツのケニアプロジェクトでは、円滑にプロジェクトが遂行できるよう、現地スタッフ等との連携を意識して取り組みたいと考えている。

### 運動靴がエスンバ村へ！

遂にケニア、エスンバ村の子どもたちに運動靴が届くことになった。エチオピア航空さんが運動靴を無料で運んで下さった。総計なんと 1.1 トンもあった。

在ケニア日本大使館の協力のもと業者の方と手続きを進め、本日（6月6日）、いよいよ運動靴がトラックに積まれることになった。

トラックが到着。

運転手の方々。「運送は任せて！」との力強いお言葉をいただいた。

総計 75 箱があつという間に積まれていった。



そして遂にトラックに荷物が！感無量。

今回現地でお世話になったアブダさん。アブダさんがいなから、今回の運動靴の輸送は実現しなかった。

お世話になった業者の方々と。

日本のお守りパワーで一致団結し、取り組みを地道に進めてきた。トラックに積まれた運動靴は10時間の道程を得て、エスンバの子どもたちに届く。エスンバの子どもたち、待っていてくださいね！

そして、このプロジェクトを応援して下さったすべての皆様。本当にほんとうにありがとうございました。  
今後も活動は続きますので、引き続き応援よろしくお願いしたい。



2017年06月07日

### スナノミ症根絶に向けたアドボカシー活動

本日、参議院議員会館に伺った。ケニアのスナノミ症の根絶に向け、日本リザルツは運動靴を集め、最貧困層の方々が暮らすケニアのエスンバ村に送り届ける活動を行っている。今後は、世界中のより多くの方々にスナノミ症について知っていただくため、国会議員の先生方のお力添えをいただきながら、世界に向けてアドボカシー活動を行っていきたいと考えている。SDGsが掲げる「誰一人取り残さない社会」への実現に向けて、運動靴を送ってくださった日本中の方々とともに、日本リザルツは尽力していく。

## ナイロビ生活 vol20 "CHV ミーティング編"

(CHV ミーティングの様子)

今週火曜日(6/5)、水曜日(6/6)で月例の CHV ミーティングを開催した。

先月分のレポートをまとめ、成果を発表し問題点などを、話し合う場だ。両日ともに活気があり、決起集会のように感じた。

また、スタッフの一人カルヴィンからのアドバイスに耳をすまして聞きいっていた。

1人のCHVに彼の印象を聞いてみると「親しみやすく、なんでも相談できる存在だ」と言っていた。

(ケニア政府から出されているコレラ予防に関するポスター)

(ミーティング後に体調が悪い住民のために寄付を募る CHV)

このような光景は毎回見られる。そして本日(6/6)は事務所移転の日でもあった。プロジェクトの残すところ2ヶ月となり最終報告書の作成に向けて、情報の整理や分析を効率的に行うために、また情報収集・分析などを行うスタッフがオフィスで作業することがこれまで以上に増えることになるためだ。

空っぽの新事務所

これまでの事務所

事務机などを運び出す。

新事務所の完成。

明日、レイアウトなどを考えて、設備なども充実させていく。



## [速報]運動靴がエスンバ村に！

ケニア時間の朝 5:30、現地 NGO のエドワードから一本の電話が入った。「75 箱、運動靴が届いた」という嬉しいお知らせだった。エスンバ村はインターネット環境が非常に悪く、みなさんにお写真でお知らせできないのが非常に口惜しい…。全国、全世界の皆様、応援下さり、本当に感謝している。

皆様から届いた運動靴は今日から 1 足 1 足エスンバ村の子どもたちに届けられる。

## 港区役所への訪問

先日港区役所を訪問し、戸籍担当の窓口に法務省が作成した「子どもの健やかな成長のために」というパンフレットが置いてあるのが目に留まった。また、2012 年の 4 月より離婚届には面会交流や養育費の取り決めをしているかどうかのチェック欄が設けられ、子どもがいる夫婦が離婚をする際には、どのような養育が子どもの幸せにとって必要か、を考えるきっかけになっていると思う。本当に少しずつですが、離婚後の養育に関する制度や仕組みが改善されてきていると実感している。

また、港区の子ども家庭支援センター や、区役所の子ども家庭課にて、当団体のパンフレットや今月開催される「夫婦のコミュニケーション講座」のチラシを置かせていただいた。離婚による子どもへの負担が、少しでも軽くなるような支援ができればと思う。

2017 年 06 月 08 日

## はじめまして！

今週より日本リザルツでインターーンをしている、春日桃子です。私自身も昨年エスンバ村にてボランティアを経験し、スナノミ症にも感染し、現在はスナノミが世界中で認知されるようにする活動などにも取り組んでいる。みなさまからご支援いただいている Q&AAA+プロジェクトが実を結んでエスンバの人々の支えになるよう、努力していきたい。

2017 年 06 月 08 日

## 食事の量より質

無料や低料金で利用できる「子ども食堂」が、日本では全国的に貧困問題の一環として注目されている。給食が唯一の食事らしい内容で、夏休みなど長期休校中は、まともな食事が得られない日が続くらしい。ダイエット食品や運動が流行る一方で、このような食に窮乏する実情があることは、以前の日本には殆ど見られなかったと思う。その点途上国では如何だろうか。結核予防のプロジェクトを行っているケニアでは、日本以上に貧富の差があり、そのためかより豊かな収入・生活願望が強いと感じる。然し、貧しいから食にありつけない、やせ細っている訳ではない。

スラム地区では肥満体の方も結構見かける。何故か、それは多分食べるもののせいだと思う。糖分の多い食材、ティーに入れる多量の砂糖を見るとそう考えてしまう。今は感染症予防を中心にして事業活動を行っているが、今後は栄養や生活習慣の改善を含めた、総合的な疾病予防や健康管理も手掛けて行く必要がある。

### スタッフミーティングを開催

ケニア時間の午後3時から、新たな日本リザルツオフィスで現地スタッフとケニア所長白石のミーティングが行われた。

会議では今後2か月の課題と目標を共有し、それぞれが何をすべきかが共有された。また、今回の会議には、1年目のケニア結核アドボカシープロジェクトを成功に導くためにみんなで一致団結しよう！という決起集会の意味合いも込められている。

白石は、スナノミ症の活動とナイロビでの仕事の経験から多くのことを学んだことを紹介し、日本リザルツでは貴重な経験ができるので、是非、ここで、一生懸命仕事をしてもらって沢山の経験をしてもらい、次のステップにつなげてほしいとスタッフに呼びかけていた。



みなさん真剣だ。1年目のケニア事業もあと2か月。成功に導くにはスタッフの協力が欠かせない。

全員が一体となって、事業に尽力を注ぎ、最高の成果につながるといいですね。

2017年06月09日

### スタッフミーティングを開催2

ケニア時間の午後2時半から、新たな日本リザルツオフィスで現地スタッフとケニア所長白石のミーティングが行われた。

今日は白石も含め5人のスタッフ全てがそろった。



本日は今後2か月の活動方針の確認に加え、最終報告書の一部になる「結核報告書」について議論を行った。ケニア所長白石の統括のもと、誰がどの記事を書いたらいいのかや、構成をどのようにすればいいのかをメンバーで話し合った。



CHV 統括のカルヴィンや看護師のジュリアを中心に、白熱した議論が展開され、本日の会議をもとに、無事に方向性を決めることが出来た。ケニアのスタッフ、CHV、医師、看護師、そして地元の方…みんなで作る「結核報告書」は日本語、英語の双方を制作する予定。

### 釜石生活 68 ~親子交流会~

明日、6月10日は「青葉通り こどもの相談室」の親子交流会の日。



これまで、シリコンゴムのプレスレットづくり、親子でワンディシェフの日と室内で行ってきた親子交流会ですが、明日は野外活動となりますので、やや緊張して、準備にぬかりはないか、釜石市子ども課の主任と、確認に確認を重ねている。心配された天候も、何とか持ちこたえるか、ちょっと小雨に遭うか、程度で済みそうだ。

このような「しおり」も作った。

普段、子育て世代の親子の会話って、親からは「宿題やったの?」「早く起きなさい」「ゲームは1時間って言ってるでしょ!」のように、ついつい、注意、指示、命令、禁止の内容になってしまいがちで、それに対して子どもからは「うるせーなー」「わかつ



てるよ」「もー」と返す、その繰り返しになっていたりすることが多いようだ。そんななかで、日常を少しだけ離れて、親子で一緒に何かをする体験を通して、子どもの成長に驚いたり、普段のコミュニケーションを省みたり、新しい気付きがあつたりすることを期待している。過去2回でも、親御さんの感想で「いつの間にか、こんなことができるようになってたんだ、とか、意外と的確な判断ができる、成長ぶりに感動しました」というお話しもあった。今回は、間に入ってくれるのが命(も性格も)ある馬ですから、親子との交流でいろんな化学反応も起きたりして、一層楽しく、深い親子交流会になることと思う。

### 電通さんから靴の贈り物-②

5月29日に続いて本日も電通さんが靴を届けてくださった。先日エヌンバ村へ靴を発送して、会議室がスッキリしたが、続々と運動靴が届いて、またまた靴を入れた箱がどんどん増えている。



### ケニア渡航前の予防接種

8月から日本リザルツが実施予定の第2次結核プロジェクト（ケニア）を担当することになる。昨日は、渡航前の予防接種のため、国立国際医療研究センター・トラベルクリニックに伺った。国際保健規定により、渡航国によってはワクチン接種証明書が求められる黄熱病、発症後の致死率の高い狂犬病、世界中で100万人が感染している破傷風、そして、飲食物が感染経路となるA型肝炎のワクチンを、専門医と相談の上、接種することにした。また、ケニアの首都ナイロビでは、マラリア感染者数が少なくなっている、経口のマラリア予防薬は必要ないだろうとの話を聞き、少し安心した。円滑なプロジェクト運営ができるよう、予防接種も含めて自分自身の健康管理をしっかりと行いたいと思う。

## 東北の熱気

昨日は、津波募金をした。ここ最近は、少し暑さがやわらいで過ごしやすい。

その前の、10日・11日には、仙台にて東北絆祭りが開催された。2011年から7回目で、昨年で東北6県での開催を終り、また仙台に戻ってきたそうだ。今日の少し肌寒い都内に、祭りの熱気が恋しくなった。



2017年06月13日

## 清田明宏 UNRWA 保健局長の記事が毎日新聞に！

6月11日付の毎日新聞朝刊に国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）清田明宏保健局長の寄稿が掲載されていた。

記事によると、食生活が偏る難民キャンプ生活によって、パレスチナ難民の生活習慣病が増えているそうだ。UNRWAの保健部門のトップ、清田保健局長を中心に日本の知見を利用して、パレスチナ難民の栄養改善をはかる動きが出てきている。筆上手の清田保健局長。ご自身が執筆された著書が表彰されて、安倍昭恵首相夫人に表敬した経験もお持ちだ。

こちらがその著書。



清田保健局長の取り組みをはじめ、日本の経験と知見がUNRWAのプロジェクトに活かされることで、1人でも多くのパレスチナ難民の方が笑顔で健やかな生活が送れることを願っている。



2017年06月14日

## ナイロビ生活 vol21 “最近の出来事編”

(最終報告書に向けて打ち合わせをするスタッフ達)左からカルヴィン、アブタ、ペレス、ジュリア)



(カンゲミ地区長からカンゲミについて話を聞いてきました)



(真剣な表情のカンゲミ地区長)

ケニア全体の問題点とは違う、カンゲミスラムならではの問題点を語ってくれた。

2017年06月15日

### 手作りのはがき

先日からみんなで一日がかりでコツコツ書いていた国會議員さんへのらぼ～る事業の広報はがきがついに完成。内容は、夫婦の離婚が親子の断絶にならないための取り組みについて。



その数なんと722枚。中には筆っこができるほど書き上げたスタッフもいたが、こうした地道な努力はきっと真心を届けてくれることだろう。

### ボランティア、インターンの皆さん

リザルツ事務所に日々送られてくる大量の運動靴を整理するため等にお願いしたボランティアの方が素晴らしいので、ぜひご紹介したいと思う。何が素晴らしいかというと、そのスピード。我々職員の倍くらいのスピードであつという間に靴整理だけでなく、いつも横目で見ながら全く手をつけられなかった書類などの整理もどんどん進めてくださった。インターンの皆さんにもとても熱心にお手伝いをしてもらっている。



リザルツのインターンのお仕事は、職員が行う業務もお任せすることがあるので、インターンの方達からは大変勉強になるとの感想も聞いている。本日は、リザルツのらぼーる事業についての

資料と手書きの葉書(!)をクリアファイルに入れて、国会議員の先生方に届ける準備をした。



2017年06月15日

### アドボカシーの多様性

日本リザルツの基本的な活動はアドボカシー、政策提言とも訳されるが、「政策」から受ける定義では範囲が制限されているように思う。具体的に言うと、国や自治体、公共機関に要望したり、提案すること等のように受け取ってしまう。勿論リザルツは、政府などに政策提言を行うNPOとして、稀有な存在かも知れない。世界的な大規模の基金や財団への出資を政府等に働き掛けている。一方で“世界の貧困と飢餓を撲滅させる”を掲げ、途上国の人々の健康、生活環境を改善するべく日本のODA（政府開発援助）資金を活用した支援を、ケニア・ナイロビ市内で実施している。この活動は、地域住民の中から選ばれた、地域医療ボランティア(CHV)を介し、感染症(本事業では結核を対象)の予防と啓発を行っている。これは一種のアドボカシー活動と呼べる。一般的にODA資金を、ハード(建物を建てたり、物の供給・贈与)やソフト(疾病予防・物づくりや農業指導、学校教育など)事業を通じ活用しているが、日本からの資金はそのまま使われることになる。目的に沿って有効に、無駄なく、適正に活用されれば、役目を果たしたことになる。しかし、“有効に、無駄なく”を出資側の日本に当てはめても良いのではないか。この場合は主にハード事業が該当し、事業で調達する資機材・製品を日本製とすれば、日本に還元されることになる。その際は上述のように適正(且つ適性)であり、同時に現地の人々にも納得できることが、必要条件と考えている。ナイロビ市内の次年度事業では、日本の優れた結核菌の診断機器を導入する計画で、診断時間の速さ、簡単な操作などを選ぶしかない、原産国ではなく製品自体の機能・価値で選定している。この診断機器は、過去のハイチ地震の際、リザルツがいち早く現地に持込み、実績を証明した経緯がある。このように民間企業の技術力を国際貢献でも活かし、企業にとっては製品などの宣伝、存続の確保にもなる。ビジネスではあるが、社会貢献と企業倫理もまた兼ね備えていなければならない。先日もある塗料メーカーの方が来所、断熱効果を有する塗料の国際貢献を話し合った。これからもこのような案件が寄せられ、また我々が見出すことにも務めていきたい。アドボカシーの多様性の現れでもある。

## はじまる 2018 年度税制改正の動き>国際連帯税の実現に向けて

「国際連帯税につき前向きにしっかりと取組みたい」と述べる岸田外務大臣



長かった通常国会も 18 日に閉幕となるが、これからは国レベルでの主な作業は、次年度（2018 年度）に向けた予算案づくり、税制改正案づくりとなっていく。どちらも 8 月末に概算要求（予算）、改正要望（税制）を各省庁から財務省に提出することになる。国際連帯税についても、例年通り外務省が「国際連帯・貢献税」の新設要望を出してもらうことからはじまるが、今年はトピックとして以下の 3 つの状況がある。

### （1）岸田外務大臣が国際連帯税にとても前向きなこと

すでにお知らせしたが、去る 5 月の参議院決算委員会で、（国際連帯税議連事務局長の）石橋通宏議員の質問に対して、岸田外務大臣は次のように答えている。

**外務省としましても、また私自身としましても、…是非、国際連帯税に向けて前向きにしっかりと取組を続けていきたい。**

### （2）外務省の国際連帯税に関する調査委託報告書の公表

外務省は、昨年 11 月国際連帯税の制度設計に関する調査のため、寺島実郎氏を座長とし有識者による研究会を立ち上げ（正式名は、「国際連帯税を導入する場合のあり得べき制度設計及び効果・影響の試算等」調査委託）、その報告書が本年 2 月末に公表された。

その報告書では、「我が国が今後さらに（SDGs 実施等）積極的な国際貢献を行い、国際的な影響力を拡大させるためにも、国際連帯税導入に向けた検討を進めていくこと が必要」との立場から、航空券連帯税、金融取引税、炭素税、旅券手数料への課税を打ち出した。

### （3）国連 HLPF でのフランスの報告>国際連帯税の実施を報告

ご案内のように、2015 年 9 月国連で「持続可能な開発目標（SDGs）／2030 アジェンダ」が採択されて以降、舞台は持続可能な開発のためのハイレベル政治フォーラム（HLPF：High Level Political Forum）に移っている。HLPF では 4 年に 1 回首脳級の総会を開催し、SDGs 実施のレビューを行うが（第 1 回が 2019 年）、これとは別に毎年閣僚級による自国の取組に関する自発的レビューや取組につき発信することになり、昨年からはじまっている。

フランスは ODA の GNI 比 0.7% 抛出の 2030 年までの実施（EU の共通援助目標として）を報告するとともに、革新的資金調達としての国際連帯税（航空券や金融取引への課税）の実施し、パンデミック（感染症の世界的な流行）や気候変動への対策資金として提供していることを報告しました。今年 7 月には 2 回目の HLPF が開催され、今回は日本政府も報告します。日本政府はぜひともフランスに続いて、先進国・ドナー国の責務として ODA の 0.7% 抛出ならびに国際連帯税につき報告していただきたいと思う。

（報告：田中徹二・グローバル連帯税フォーラム／日本リザルツ理事）

## スナノミ症の説明会

ケニア共和国エヌンバ村にて 7 月に開催するスナノミ症キャンペーンについて説明するため、先日、議員会館に伺った。スナノミ症に感染した患者様の写真のインパクトは大きく、対策の必要性を十分に理解いただけたように感じた。様々な媒体を用いながら、患者の声を国会議員の先生方をはじめ、多くの皆様に届けていきたいと考えている。

2017 年 06 月 16 日

## ナイロビ生活 vol22 “今後の予定編”

日本リザルツが日本の ODA 資金を活用しケニア・ナイロビ市内で実施している「ナイロビ市のスラム居住区におけるコミュニティ主導の結核予防・啓発活動の拡大支援事業」の初年度があと 1 ヶ月半で終了になる。

事業地であるカンゲミスラム居住区の様子



（改装した結核クリニック）



これからの残り 45 日間は、「最終報告書の作成」とさらなる「コミュニティ主導の結核啓発活動」を行なっていく。今月にはケニア政府が主催し、CHVs が行うアウトリーチ事業（malezi bora activities と呼ばれている）がある。CHVs がカンゲミ地域社会への奉仕活動に主役として活躍する年一度の大舞台だ。それとは完全に独立して、カンゲミ地区長と共に、カンゲミ地域内の学校(Primary School)に CHV を派遣し結核啓発のための授業を行う企画も計画している。来月からは、エンドラインリサーチ(カンゲミ住民の結核に対する知識や偏見に関するデータを収集。CHV 協力のもとで「結核患者は必ず HIV にも感染しているか」という質問から「結核クリニックに通うことに対する不安を感じるか」という偏見に関する内

容まで、広範囲を網羅する調査)を行う予定だ。さらにエンドリサーチと同時に、持続可能性の観点から日本リザルツの活動/CHVの活動がどれだけ認知されているのかについて調査を行う予定だ。これらの活動がどれだけ地域住民に受け入れられているのかを示す非常に重要なデータになる。また、7月にはマルチ会合とフォローアップ会合も予定されており、怒濤の45日間になる。

### 釜石生活 69 ~親子交流会@三陸駒舎~

6月10日（土）は朝から雨が降ったり止んだりのあいにくの天気だったが、親子交流会は予定通り実施した。「今日、行きますか？」という問合せが2件あったりして、時間通りに出発できるか心配だったが、皆さん、ちゃんと9時50分までに受付を済ませ、手書きの名札を胸に貼り、バスへ乗車を呼びかけると速やかに乗り込んでくださり、ぴったり10時に出発できた。

その後も、バスの中のマイクでアナウンスしたことを、ちゃんと聞いてくださって、守るべきルールは守ってください、怪我もなく、楽しい時間を過ごすことができた。

その様子を伝える復興釜石新聞の記事がこちら。



三陸駒舎の「馬との出会い・コミュニケーション」プログラムとして、スリーステップで馬と仲良くなっていくのを親子で体験していただいた。まず、7歳牝馬のアサツキに草を与えた。最初はこわごわ長い草を与えていた子どもたちも、だんだん慣れてくると、小さな手のひらに乗せた草を与えられるようになり、アサツキが上手に食べると、「（手のひらが）くすぐったい！」、「なめられたよ」と声をあげて喜んでいた。



次に、ブラッシングです。みんなに順番にブラッシングしてもらったアサツキは、立ったまま眠そうな表情をしていた。



そして次は、散歩。子どもたちは小さな身体で、350kgもあるアサツキが指示に従ってついてきたり曲がったりして、言葉を介さないコミュニケーションがとれる醍醐味を楽しんでいた。それらのスリーステップを踏んで、馬との距離を縮めてから、順番に乗馬をした。小さい子から順に乗ったが、持ちこたえていたお天気が最後まで待ってはくれず、一番大きい2人はずぶ濡れになってしまった。親子が馬を介して、普段と違う会話ができたり、注意や禁止が多くなりがちな子育ての中で、上手に褒める、成長を見てあげられるきっかけになったと確信できる親子交流会であった。

2017年06月17日

### 釜石生活70～子どもの気持ち 学習会～

6月15日（木）10～12時、鵜住居公民館にて「子どもの気持ち 学習会」を実施した。鵜住居地区は、釜石市でもっとも震災の被害が大きかった地区的ひとつで、今も復興工事が続いている。その鵜住居公民館で「喪失を経験した子どもの気持ち」をテーマにした学習会を開催することには賛否両論あるだろうと思ったが、2月にグリーフケアの研修を受講して以来、鵜住居でこそ学習会を開催したいと考えるようになっていた。



そして今回は、佐々木誠先生（臨床心理士、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 特任准教授）による「喪失を経験した子どもの気持ち」をテーマにした学習会だった。

東日本大震災で壮絶な「喪失」を体験された地元の方も多かったので、大変辛い学習会だったことと思う。



参加者の皆様にとっても深い学びの一日になった。

2017年06月19日

### 「あいうえお」をリザルツの定款に！

18日、遂に通常国会が終わりを迎えた。様々な議論があつた中、代表の白須が目を付けたのが中谷前防衛大臣のこちらの発言でした。白須も私も中谷議員のご忠告に感銘を受け、自分たちの活動に取り入れようと、ケニア事務所の職員に共有し、議論をしてもらった。チーム・ケニアのアブタさんが共有した議事録を見ると、「あいうえお」は国が違えど、分かる方は分かるようだ。

中谷議員に無事お渡しすることができた。



2017年06月20日

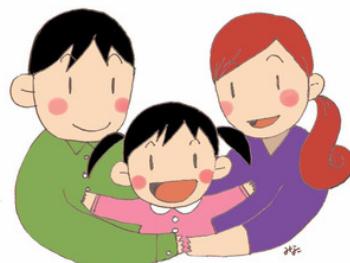
### らぼーるの「夫婦のコミュニケーション講座」掲載

本日（6月20日）の朝日新聞朝刊にて、『夫婦のコミュニケーション講座』の案内を、24面の東京マリオンの掲載欄にて、紹介いただいた。

### ADR利用者からの嬉しい声

本日、離婚に関するADRの面談を行った。お子さんことを大切にして話し合いに臨み、本日1回で合意が成立し、共同養育計画合意書作成まで完了し、合意書の内容も充実していた。早ければ良いわけではないが、お父さんお母さんそれぞれが相手を思いやる、そんな優しい空気があったからこそ、得られた成果だった。夫婦の関係は崩れても、この人としての姿勢に仲裁人として立ち会わせていただき、感動を覚えた。また、来談者からの感想として、「二人で話し合うと言ひ争いになってしまふところが、第三者が入ることや書面を見ながら話し合うことで、いつもより冷静に話し合いができました。」

「話しが脱線せずに進められることが良かったです。」とお話をいただいた。お子さまがいらして離婚をお考えの方はぜひ、利用いただきたいシステムだ。離婚後のトラブルを防止するために、夫婦が壊れても親子関係が途絶えないためにADRはお奨めだ。



2017年06月20日

### JICAでの勉強会

昨日、JICAにお伺いし、栄養改善及びケニアの結核プロジェクトに関して榎本雅仁上級審議役から貴重なお話を伺った。

ケニアをはじめとした途上国では、現地の方々と一緒に、よりよい生活にするために共に何ができるか話し合う機会を持つそうだ。また、実際に市場に見学に行き、生計を立てるためにどんな技術が必要なのか、一緒に調査をしながらプロジェクトを進めることもあるそうだ。これは、日本の農村部で以前用いられていた『生活改善』という手法で、JICAでは現地の方々の内発的動機付けを重要視しているとのこと。興味、好奇心、活動そのものへの満足が、人を行動へと驅り立てる場合、心理学では内発的動機付けと呼ぶ。一方、称賛や報酬、罰などの外部から与えられるものが、人を行動へと驅り立てる場合、外発的動機付けと呼んでいる。人間の行動は、どちらか一方の動機に依拠するのではなく、常に内発及び外発的動機付けから影響を受けている。現地の方々の価値観やニーズに沿ったプロジェクトを共に展開することで、彼らの内発的動機付けを引き出し、プロジェクト終了後に現地の方々が自主的に活動を継続できるような体制を作っていくと考えている。

### 日本リザルツ、運動靴屋に大変身

日本リザルツが取り組んでいるスナノミ症対策事業、Q&AAA+プロジェクト。

先日、エチオピア航空、在日ケニア大使館、そして在ケニア日本大使館のみなさまの協力もあり、75箱、1.1トンもの運動靴をケニアへ輸送してきた。東京のオフィスには続々と運動靴が届いている。昨日は長崎にある企業の方が会社で集めて下さった運動靴が、大きい段ボールで5箱も届いた。依然として、多くのみなさまが関心を持ってくださっており、スタッフ一同本当に感謝している。これからも地道に運動靴を集め、ケニアをはじめスナノミ症がまん延する国に届けていきたいと思う。



### らぽーるに高校生訪問

本日は、アレセイア湘南高校の生徒がリザルツを訪問し、らぽーるについても話を聞いてもらった。日本の離婚後の親権の制度や離婚率の増加などの背景と、離婚後に子どもに会えなくなってしまう状況があること、それに対して、らぽーるでは、子どもの幸せを一番に考えて、離婚の際に子どもの養育についてきちんと話し合ったりするように支援していることを話した。離婚と

いう事柄について、普段、友だちとの間では話に上らないテーマかと思ったが、3組に1組が離婚すると言われている昨今、実は身近なことでもある。まずはこのような問題があることを知つてもらうことと、友達の中にもそういう状況の人がいるかもしれない、何かできることがないかちょっとでも考えてもらうきっかけになればと思った。真剣に話を聞いてもらい、あっという間に時間が過ぎてしまった。

### 釜石生活 71 ~離婚・再婚 親の事情と子どもの気持ち 学習会~

今まで部分的にお伝えしてきましたが、釜石市は8つの地区に分けられ、それぞれの地区に公民館、生活応援センターが置かれ、それぞれの地区に定数の民生委員、児童委員が（合わせて）20～30名程度いらっしゃる。これまで、月1回開催される各地区的民生委員・児童委員協議会には何度も参加させていただき、子ども課の委託事業で「青葉通り こどもの相談室」を開設した挨拶からはじまり、各種研修、学習会への参加を呼びかけたり、日頃地域支援においてお困りのことはないか、地区内でどのような家庭問題を見聞きされるか等の意見交換を行ったりしてきた。そしてこのたび、2名の主任児童委員（各地区的児童委員の中で毎年2名選出される）が相談室を訪ねて来られて「7月8日の主任児童委員勉強会をファシリテートしてほしい」という、何ともありがたいお話をいただいた。テーマや講師はお任せする、とまでおっしゃっていただいたので、こちらを開催することにした。

私が、釜石市で相談業務と研修事業を7か月ほど行ってきて肌感覚で感じる特色や傾向、背景として考え得ること、実際のいろいろな数字のご紹介などを最初にさせていただき、臨床心理士の石垣秀之先生に統計学的に適正なデータ分析、心理学的な見地からのお話などををお願いして、要所要所に、事例検討、分かち合いや意見交換の時間を設けながら進めたいと考えている。



### 高校生が日本リザルツを来訪2（マリオ登場編）

高校生のみなさんが日本リザルツを訪問したときのこと。

ボランティアの藤崎さんの作業をいきなりお見せし、高校生のみなさんが「????」となっているところに、段ボールの陰から私が登場。「この人は何をしているでしょう？」と藤崎さんとのことを紹介させていただいた。



藤崎さんには、運動靴の整理や日本リザルツが行っている Q&AAA+プロジェクト、そして、スナノミ症について説明してもらった。高校生のみなさん、すごく真剣に藤崎さんの話を聞いてくださった。



#### 高校生が日本リザルツを訪問 4

高校生たちへの説明、質疑応答が終わり、彼らが帰る直前に最初にお渡しした資料の追加として、We ❤️ Tシャツをプリントしたシールをお渡しし、玄関までボランティアさんを含め、全員でお見送りした。



高校生へ NGO の活動を説明する貴重な機会でした。こういう訪問は大歓迎だ。



#### 釜石生活 72 ~多田自然農場~

6月21日、所用で、釜石の事業をボランティアでお手伝いいただいている木下美喜夫さんにご同行いただき、釜石市から電車、車とも1時間程度内陸に移動したところにある遠野市に行ってきた。用件は1時間ほどで済んだので、せっかく遠野市まで行ったので、日本リザルツの多田克彦理事が経営される「多田自然農場」を訪問してきた。

突然伺ったので、多田克彦理事はご出張中でお会いできませんでしたが、スタッフの方々がとても暖かく迎えてくださいました。ちょっとご挨拶を、と思つただけだったが、釜石の活動について質問してくださったので、先日の釜石新聞記事などもお渡しして、親子交流会で貸切バスで出かけたりもしていることをお話しすると、チーズケーキ工場見学で子どもたちの受け入れも可能な旨おっしゃっていただいた。ありがたいことだ。作業



場では、ほうれん草を束ねる作業をされてる方の手元のほうれん草の縁がきれいで、見入っていると、農薬は使わず、肥料も自然界に存在する有機肥料のみで作るナチュラルほうれん草であることを教えていただいた。ほうれん草のハウスには、1枚1枚の葉っぱが立派なほうれん草が収穫を待っていた。



いつも、白須から「遠野の道の駅のジェラートは世界一おいしい」と聞いていたし、私もプリンやロールケーキをいただいたことがあり、「多田の乳製品やスウィーツ」のおいしさは知っていたが、農場を訪れてみて、きっと「多田野菜」のファンも多いに違いないと確信した。いつか、釜石の子どもたちを連れて「多田農場の“よいものをつくる”ことへのこだわり」を見学に行かせていただきたいと思った。

### ケニア大使館・エチオピア航空様への感謝状贈呈式-2

表彰式ではインターンの春日さんも準備をはじめ花束贈呈に大活躍した。花束贈呈の大役を任せられた春日さんは式が始まると前に、花束の置き場所や花束を取りに行く順番を確認し、臨機応変に対応してくれた。ケニアのマイナ駐日大使にはケニアの国花である蘭の花束を、エチオピア航空のイエル

ガ氏にはエチオピアの国花であるカラーの花束を贈呈した。大変頼もしいインターナンさんだ。



2017年06月22日

### 高校生訪問①

本日、神奈川県茅ヶ崎市にあるアセシア湘南高等学校の2年生4名(男女各2名)が、リザルツの事務所を訪れた。同校ではグローバル教育に焦点をあてた新たな教育プログラムに取り組み、高校2年生ではNGO・国際機関への訪問研修を通して、訪問先の現場を知り、問題意識を持ち、視野を広げることを目指しているとのこと。事前に来訪目的、質問事項を聞いていたが、高校生にどのような説明をしたらよいか、少し考えた。事務所内で各担当者と相談し、配布する資料を揃え、約1時間の説明の段取りを整え、高校生の方たちを出迎えた。少しでもリラックスしても

らう意味もあり、説明場所の会議室に入るところから、趣向をこらしたつもりだ。詳しくは各担当者の続編をご覧ください。私の担当したのは、リザルツの業務概要を簡単に説明した後、ケニア・ナイロビ市内のスラム居住区で実施している、結核予防・啓発活動について、CHVの活動、スラムの罹患率が高い理由等を含め話をした。高校生からは、事業を行うまでの問題や悩み、事業規模更に団体に入った理由などの質問があった。こちらからの説明、質問に対する回答が、どの程度理解されたか心配な面もあったが、それより学校の学習プログラムの一環とは言え、国際貢献、国際協力に関心を持ち、弱者と呼ばれる人たちの存在を、知ってもらえるだけでも、有意義な機会であったと思う。



### ナイロビ生活 vol23 “School Health 準備編”

来週から、「School Health(学校保健)-CHV をカンゲミ地域内の学校に派遣し結核啓発活動を行う企画」が始まる。本日(6/22)、最終打ち合わせを行った。



カンゲミ地区内にある 12 の小学校で「結核啓発活動」を行う。合計で 1200 人の子どもたちに会うことができる。

2017 年 06 月 23 日

### ケニア大使館、エチオピア航空への感謝状贈呈式

日本リザルツは、ケニアのスナノミ症根絶に向けて、市民の方々から運動靴を募る活動を行っている。既に約 5000 足を日本中から集め、ケニアのエスンバ村に少しづつ送り届けている。実は、この運動靴をケニアに送るだけでも、輸送料、倉庫代、関税など多くの諸費用がかかります。そこで今回、私たちの活動にご賛同いただいたケニア大使館、エチオピア航空に多大なるご支援を頂き、6 月に 2350 足の運動靴を無事に輸送することができた。先日は、ケニア大使館のマイナ大使、エチオピア航空のイエルガ日本支社長、高野日本地区総支配人をお招きして、感謝状贈呈式を行った。日本・アフリカ連合友好議員連盟の会長、会長代行を務められます衆議院議員の逢

沢一郎先生、三原朝彦先生にもご出席を賜り、内閣官房内閣審議官の山田安秀様、厚生労働省結核感染症課長の浅沼一成様も会議の合間をぬって駆けつけて下さった。そして、電通の木下様からはケニアで使用するエコバックを頂いた。また、サーモブロックジャパン株式会社の三浦様からは、ご挨拶を頂戴した。日本リザルツは、靴を寄付してくださった日本中の方々だけでなく、政治家の先生方、各省庁の皆様、そして、民間企業の皆様に支えられていると実感した日だった。



2017年06月24日

## [ニュース]厚生労働省の人事異動

日本リザルツは国際保健分野の改善を目指して、日々の活動を行っている。今日は関わりのある厚生労働省の人事異動が決まったので、ご紹介させていただく。報道によると、厚生労働省は23日、二川一男事務次官（60）が退任し、後任に蒲原基道老健局長（57）を充てる人事を固めたそうだ。旧厚生省出身の次官が2代続くことになる。また、新設する次官級の医務技監に、医系技官の鈴木康裕保険局長（57）を充てる方針。近く首相官邸で開かれる人事検討会議を経て、7月中旬に発令する見通しだ。

## ナイロビ生活 vol24 “エンドライン調査編”

来月からエンドライン調査が実施される。エンドライン調査は2種類を準備した。1つ目は「結核に関するもの」カンゲミ住民の結核に対する知識や偏見に関するもの。2つ目は「日本リザルツの活動/CHVの活動に関するもの」我々の活動がどれだけ認知されているのかに関するもの。また、これ以外にもCHVを対象にかなり詳しい結核に対する知識を問うテストを用意したいと考えている。さらにさらに、来週の火曜日から開始される学校保健の際には授業後のテスト、アンケートを実施する予定だ。これらのデータが今後プロジェクトを進める上で重要なデータになる。

## アドボカシーの多様性(2)

先日”アドボカシーの多様性”と題したブログを投稿した際、日本企業の優れた技術、製品が国際貢献していることを紹介した。民間の技術力を活用することで、支援を受ける国、住民は勿論のこと、提供する企業にとっても販路拡大、企業の評価の上からも相互にメリットが有り、今後もこのような取り組みを進めていくべきではないかと思う。先週同様な趣旨で、既に途上国での実績を有する企業を東京大学渋谷教授、日本リザルツ代表白須と共に訪問し、当団体がスナノミ症対策の支援している、ケニア西部の過疎地での簡易型トイレの普及について、話を伺った。対象地域はスナノミ症被害が深刻なエスンバ村周辺で、感染症対策に欠かせない衛生管理の中で、これまで汚物・汚水処理改善の必要性は認識されていたものの、少し疎かにされていたと思われる。同社では既にケニアにおける販売体制を整えられているとのことで、他の条件が整えばトイレの普及を進めやすい環境にあるかも知れない。そしてこれを機にケニア全土に広めていく構想も考えられる。



## [ニュース]イエメンでコレラ流行、感染疑われる症例 20 万件超

日本リザルツが力を入れる活動の 1 つが感染症の抑止。感染力の強い病として知られているのが、コレラです。コレラは、コレラ菌 (*Vibrio cholerae*) を病原体とする経口感染症の 1 つで、近年、世界でコレラ・パンデミックが問題となっている。今日は、そのコレラについて、深刻なニュースが入ってきた。

内戦状態にある中東イエメンでコレラの流行が止まらない。WHO (世界保健機関) は 24 日、中東イエメンでコレラが疑われる症例が 20 万件を超えたとの声明を発表した。1 日に 5000 件のペースで増えているということだ。コレラによる死者数については 1300 人以上とし、その 4 分の 1 は子どもだとしている。イエメンではサウジアラビアが支援するハディ暫定大統領側と、イランが後ろ盾に立つイスラム武装組織「フーシ派」が対立し、内戦状態に陥っている。内戦状態の混乱で、安全な水や衛生といった社会サービスが市民に行き届いておらず、コレラへの有効な対策が取られず今後、コレラによる死者数はさらに増えることが予想されている。イエメンでは武力紛争やコレラだけでなく、1700 万人が深刻な食料不足に見舞われており、そのうち 700 万人近くが飢餓に直面する事態にも陥っている。先月 30 日には国連で人道問題を担当するスティーブン・オブライエン事務次長が「イエメンは完全な崩壊状態」に向かいつつあると警鐘を鳴らしている。誰一人取り残さない世界 (SDGs) を目指すためには、困っている人の声を拾うことが大切だ。紛争地域において感染症の抑止に向けた取り組みが、すぐに進むことを願ってやまない。

2017 年 06 月 25 日

## 稻場さんがリザルツに来訪

23 日（金）NGO の重鎮である稻場雅紀さんが日本リザルツを来訪し、白須と NGO の今後について討論をしていた。

NGO が日本、世界で活躍するためには、統括をされている稻場さんの協力が必要だ。日本リザルツも稻場さん、そして NGO の活動を応援していく。



## 6月の夫婦のコミュニケーション講座

昨日は、らぽーるの夫婦のコミュニケーションセミナーを開催した。参加者の個々のケースについて、検討する時間が多くとることができて、離婚の仕組みについて、子どもへの対応についてなど多岐に渡り話し合えた。その中で思ったことは、人との葛藤に向き合うということは、自分の内面と向き合うことでもあるのだろうということだ。離婚に限らず、人との葛藤は生きていく上で避けられないと思う。特に、距離が近くなれば意見の食い違いが起こってきやすくなり、友だち同士や、職場、家庭、どこでも起こり得る。しかし、そこここで起こる葛藤にしっかりと向き合っていくことは、とても根気のいることで、労力も時間もかかる。そこでは、自分の気持ちに向き合ったり、相手の主張に耳を傾けて理解を示したりすることが必要だ。効率を求める、時間に追われる現代人に、そんなことをやっている暇がないというのも理解できるが、人と深く関わらず、自分を見つめる時間もない人生は、なんだか虚しく感じた。



## 薬剤耐性（AMR）対策に係る普及啓発イベント（内閣官房国際感染症対策調整室とは編）

26日（月）、薬剤耐性（AMR）対策に係る普及啓発イベントが開かれた。主催したのは、日本リザルツも親交の深い内閣官房国際感染症対策調整室・国際感染症対策調整室では、国民の薬剤耐性（AMR）に関する知識や理解を深めるため、関係諸機関・諸団体等と連携の下、薬剤耐性の脅威に対する国民運動を展開することとしていることから、薬剤耐性に係る全国的な普及啓発活動を推進している。また、ジカウイルスなどの感染症などの対策も行っている。「月刊ランナーズ」5月号には、リザルツTシャツを着た山田室長が掲載された。イベントをきっかけに国際感染症対策調整室の取り組みがますます注目されることを期待する。

2017年06月26日

### 薬剤耐性(AMR)対策普及啓発イベント

本日日本科学未来館で開催された、平成29年度薬剤耐性(AMR)対策普及啓発イベントに参加してきた。感染症などの細菌に対しては、これまで抗菌剤で対処してきたが、抗菌剤の使用過多などにより、細菌が耐性を持ち徐々に抗菌剤の効き目が薄れていく状況になっている。この懸念は以前よりあったが、今回内閣官房(国際感染症対策調整室)が主催して、薬剤耐性(AMR)の対策普及啓発イベントを実施することになり、同時に第1回薬剤耐性対策普及啓発活動表彰も併せて行

うことになった。最初に山田安秀国際感染症対策調整室長が挨拶され、耐性菌への対策の重要性を語られ、その中でこのままの状況が続ければ、AMRによる死者数が驚異的な数字に上るとの予測もあるとの話があった。その後忽那賢志国立国際医療研究センター医師及び田中里沙事業構想大学院大学学長お二人によるトークに移り、風邪・肺炎・インフルエンザを例に、抗菌剤が効かない疾病はどれかなど、分かり易い話をされていた。ここに「薬剤耐性へらそう！」応援大使のタレント、JOYさんと篠田麻里子さん、山田室長が加わり、どのような対策と啓発が必要かなどのトークイベントが続いた。また、薬剤耐性(AMR)対策推進国民啓発会議議長の毛利衛さんは、ご自身が無菌状態の宇宙滞在から帰還した際の体験談や人間の体に潜む、400～1,000兆個の微生物の話をされ、対象は小さくともことの大きさに、感覚がマヒしたような感じを受けた。今回表彰の対象となったのは12団体、様ざまな活動、功績を有する中で、動物にも耐性菌があり、また人の耐性菌の存在その研究は数十年前から行われていたことも今回初めて知ることになった。薬で治せると思っていたことが出来ない、ことの重要性と早期の対策を知られたイベントだった。

### 日本科学未来館でのイベント

先日はスタッフに連れられて薬剤耐性(AMR)のイベントが催された日本科学未来館に行ってきました。先週、友人とディズニー展のために訪れていたので早くも2度目の訪問となった。急遽参加することになったため、AMRという言葉についても全く知らなかったが、会場にお子さんもいらしたので分かり易い説明を聞くことができて、勉強になった。抗菌薬の適正使用については、世間のみならず医師のあいだでも認知されていないケースもあるということにびっくりした。これはヘルペスにかかり易い体质である私にとっても身近なことで、抗生物質の摂取量には十分に注意しようと思った。イベントでは「薬物耐性へらそう！」応援大使のJOYさんや篠田麻里子さん、そして日本で初めて宇宙へ行った宇宙飛行士の毛利衛さんにもお会いできて終始興奮冷めやらぬ状態だった。表彰式では企業やクリニック、病院などの組織に加え、学生の団体も表彰されており、自分と同じ年くらいの学生がここまで努力して成果を出していることに大変感銘を受け、私も自分の道で頑張ろうと改めて決意できた日になった。

### 第65回財務省NGO定期協議

昨日、財務省で開催された第65回財務省NGO定期協議に出席した。日本リザルツは、栄養三銃士のセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパンと合同にて、Scaling Up Nutrition (SUN)信託基金について質問した。また、アフリカ日本協議会の稻場様からはUHCフォーラムについて、日本国際ボランティアセンターの渡辺様からはアフリカ債務問題、モザンビーク炭鉱関連インフラ開発事業についてご質問があった。それ以外にも、ボツワナの大気汚染、インドネシアの環境ガイドラインについても話し合いがもたれた。近年、『連携が大事だ』とよ

く言われている。しかし、立場の違いによっては時に意見が対立し、議論が停滞することもある。国際機関、政府機関、民間企業、そして、NGO が統一的なアプローチをするためには、連携の質を高めていく必要がある。定期的に話し合いを重ねるとともに、連携の質を高めるための工夫を皆で話し合う機会をより多くしたい。

2017 年 06 月 27 日

### ジブチ共和国独立 40 周年レセプション

日本リザルツの代表白須と私はジブチ共和国独立 40 周年祝賀レセプションに出席した。

元防衛大臣で日本ジブチ友好議員連盟会長の小野寺五典先生や日本-AU 友好議員連盟会長代行の三原朝彦先生もお見えになり、大変盛り上がった。多くのアフリカの要人の方にお会いできる貴重な機会になった。



## 【速報】ナイロビ生活 vol25 “学校保健編”

6月27日-6月29日、3日間にわたりカンゲミ地域にある小学校で「School Health」を開催している。



## 釜石生活 73 ~保育園へのチラシ配り~

先週、釜石市教育委員会に常設されている公立幼稚園と小中学校のメールボックスに、7月15日の「弁護士による養育相談会」のチラシを持って行き投入してきた。そのチラシは、週3回のメールボックスから各学校と園に運ばれるルートに乗って学校、園に届けられ、やがて保護者に配布される。そのルートに乗らない、つまり教育委員会の管轄外の保育園、こども園、子育て支援センター等、併せて19の施設へ、6月27日(火)午後、チラシを届けてきた。

この作業も、もう何度も行つてきましたので、行く先々での反応や反響も返していただけるようになり、それも楽しみにして出かける。今回も、こんなことがあった。

- 訪れた保育園の保育士さんが、前回の弁護士相談の利用者で、渡したチラシをご覧になり「これ、待っていたんです。2回目なので、前日まで待って空きがあったら予約したいです」とおっしゃっていた。「相談室へはいつでもどうぞ。私の方で対応できることもあるかもしれませんし」とお伝えした。
- こども園にお迎えに来られたお母さんから「鈴木さんでしたっけ?お馬さんのイベントでお世話になった〇〇です。写真も送っていただいてありがとうございます。飾ってますよ」とお声掛けいただいた。

### 弁護士相談会

日 時：平成29年 7月15日(土) 14時～16時

会 場：釜石市青葉ビル 活動室

対 象：児童(0歳未満)とその保護者

内 容：しうめや不登校、虐待など親子関係、親権や養育費、裁判争取解決手続など、子どもや養育に関すること。

弁護士：多田 刑一弁護士(釜石ひまわり基金法律事務所)

申込料：電話 ☎ 070-2023-2988 (7/10まで)

(受付時間) 14時～16時

※青葉さんにご相談頂かねばなりません。

※当時の弁護士事務所・釜石ひまわり基金法律事務所様をご利用ください。

※今後の開催予定：8/6(土)、11/11(土) 14時～16時



青葉通りこどもの相談室  
釜石市大町3-8-2 青葉ビル  
070-2023-2988 平日14時～16時

お気軽にお問い合わせください

3. 保育園で対応に出てこられた保育士さんは支援者研修会の参加者だった。
4. ある園では、お子さんとの笑顔の再会があった。一時は登園拒否だったのですが、親子交流会に参加されたり、相談室にも遊びに来られたり、最終的には近いけどバスに乗せてみるという方法で快方に向かい、今となっては「あんなこと也有ったね」「あれは何だったんだろう」と不思議な思いで振り返る出来事だ。



今日は、釜石で歩んで得てきたことを実感できて、心が温かくなったチラシ配りであった。

### ストップ結核ジャパン・アクションプランフォローアップ会合への参加

27日（火）16:00から17:30まで、ストップ結核ジャパン・7アクションプランのフォローアップ会合が開かれた。ストップ結核ジャパンアクションプランは、外務省、厚生労働省、公益財団法人結核予防会、独立行政法人国際協力機構（JICA）、そしてNPOであるストップ結核パートナーシップ日本（STBJ）の官民共同で策定された（2008年）革新的なアクションプランで、年間約180万人にも及ぶ世界の結核で亡くなる人々の10%を救済することなどが中に盛り込まれている。代表の白須が、定期的に開かれるフォローアップ会合に出席した。めずらしく今回の会議は議論が白熱し、17:30を過ぎても話し合いが続いた。こうした会議が、結核の抑止につながることを願う。

2017年06月28日

### 【速報】ナイロビ生活 vol26 “学校保健編”

6月27日-6月29日、3日間にわたりカンゲミ地域にある小学校で「School Health」を開催している。

School Healthはカンゲミ地域の子どもたち（小学生）を対象にCHVsが中心となって「結核啓発活動」を行うもの。全校生徒に集まつてもらい、「結核とか何か」をCHVから話してもらった。「咳をするときはハンカチなどで口を覆うように！ハンカチ持ってる人？」と聞くと一斉にハンカチをポケットから取り出し、大きくハンカチを振って見せてくれた。



簡単な言葉で結核について伝えていく。



真剣に聞き入っている。

「HOLD MY HAND & WE WILL WALK TOGETHER」の文字が輝いている。

その後は上級生（4年生以上）



を対象に少人数で授業を実施。簡単なテストを受けてもらう。

## 安全対策研修

昨日、JICAで実施された安全対策研修（講義編・実技編）に参加した。2016年7月バングラデシュ・ダッカでの飲食店襲撃テロで、日本人7名を含む20名が殺害されたのを契機に、JICAは月1回の頻度で、より実用的な安全対策研修を開催しているとのことだった。前半の講義編は、国際政治アナリスト、危機管理コンサルタントとしてご活躍される菅原出様の脅威分析や安全対策措置に関するご講義だった。そして後半の実技編は、Crisis Management Security & Safety社が提供する危険地赴任・出張前実地訓練のショートバージョンを受講させていただいた。前半の講義は、過去のテロ事件の分析により、一体何が脅威となるのか具体的にご紹介いただいた。そして、脅威に対して脆弱な部分を詳細に分析した上で、優先度をつけながら安全対策措置を講じる手順を学習した。実際のテロ事件映像の視聴もあったので、安全対策の必要性をひしひしと感じながらの受講だった。『何かおかしいぞ』と感じたら、すぐにその場を立ち去る危機回避はもちろん重要だ。しかし、それ以上に重要なのが、『自分は大丈夫だろう』と過信することなく、実際に脅威に遭遇した時、誘拐された時などの対策を事前にしっかりと確認することで、冷静に対処できる可能性が高まるとのこと。ケニア赴任前に、しっかりと日本リザルツの方と危機管理対策についてシミュレーションしたいと思った。後半の実技は、元自衛隊や海外の軍隊出身の講師陣により提供された訓練が、非常に実用的だったので驚いた。実際に脅威に遭遇した時の避難の仕方、レストランやオフィスで襲撃を受けた際の対処、誘拐の手口など、過去の事例分析をもとに実践的な訓練を受けた。こういった訓練を受けることは大事だが、ケニアでこれを使用する場面がないことをただただ祈るばかり。研修終了後、共同通信の記者の方から取材を受けた。やはりダッカの襲撃テロ事件以降、そして、近年の世界情勢を踏まえ、安全対策への関心が高まっていることを実感した日だった。

## 自家製塩辛

日本リザルツで運動靴の整理をしてくださっているボランティアの藤崎さんが、自家製のいかの塩辛を持ってきてくださいました。前回の昼食時、インターナンスの春日さんが塩辛が好きだとわかり、藤崎さんが「ちょうど作ったばかりのがあるから」と持ってきてくださいました。早速、みんなで美味しくいただいた。ごちそうさまでした！

早速嬉しそうに塩辛を口に運ぶ春日さん



## 釜石生活 74 ~AMKI~

昨日、帰宅したら「AMKI の C」が届いていた。5月2日に受講した「アンガーマネジメント キッズインストラクターの認定証(CERTIFICATE)」だ。

すぐに”キレる”若者が多いと言われる昨今、小さい頃からの感情教育、特に怒りの感情の正体と取り扱い方を学んでおくことは、とても大切で、キレやすい傾向に有効に働くと思う。そして、そんな思いを共有できる子ども課の方々や先生やカウンセラーや保育士や児童委員や親や大人たちがどんどん増えていくように、活動の輪を広げていきたいと思う。



2017年06月29日

## 「相談支援員に求められる態度とスキル」研修会に参加

今日は、東京都ひとり親家庭支援センター“はあと”主催の、「相談支援員に求められる態度とスキル」研修会に参加してきた。相談員として基本の態度から学ぶことができ、とても勉強になった。日ごろの自分の感覚というセンサーがとても大事とのことで、日常の生活が日々の臨床活動に繋がっていくのだと思った。日々の生活の中でも自分の感覚に目を向け、外界に対して瞬発力を持ってどう対応するか。日常を丁寧に生きる、ということを著名な心理の先生が言っていたことを思い出した。また、最後にお話しされていた“質問力”というワードが心に引っかかった

ので、後ほど、関連本を購入しようと思う。こちらの研修会は、月に一度、支援者向けに開催されているようですので、今後も勉強していきたい。

2017年06月30日

### ナイロビ生活 vol27 “自転車購入編”

CHVs（コミュニティーヘルスボランティア）は日頃から地域内の結核の疑いがある方に、結核クリニックへの受診を奨め、状況に応じクリニックに連れていく活動を行っている。先月は80名いるCHVsが約1000軒以上の家を訪問、健康状態を観察し結核の疑いがある方を300名以上連れてきている。その中から、数多くの結核患者を発見している。我々の活動は、このような彼らの地道な活動によって支えられています。そんな彼らの活動をさらに活発にするため、効率的に地域内を動くことができるよう、そんな思いから自転車を購入した。

自転車を製造する会社との交渉の結果、新品を良心的な価格で購入することができた。工場から直接購入しているため、同じタイプのものが手に入り、さらにCHVsの間に一体感が生まれると思う。

カンゲミの未舗装の道を走ることも予測できるため、通常のタイヤより丈夫なものに変えてもらった。保管場所を確保するために、掃除を行った。これらの自転車はCHVsに無料でレンタルされ、さらなる活動範囲の拡大とモチベーションの向上にも繋がる。

